

銭々は自由人だ

銭々、銭々崎崎者、私を含め大多数は一般社会から、銭々崎々自由を求めてやってきた。なるほど生活はしにくいかもしれないが、それは物質面に限られると思う。

銭々はなぜ一般社会に適応できないのか。それは個人間の事情はあるが、銭々崎々やってきたのは精神的自由があるから銭々に、できたのだ。

しかし、一般社会はそれを許さず、あきたくないのだ。日本中が銭々にいなければ、一番困るのは資本家、すなわち大企業なのだ。

大企業の特質は、何事もいわずに動く、大のよう尾をふる人間にだけ「エサ」を与え、かりと鎖につなぎ、警察犬のよう自由にあやつける人間だけが必要なのだ。

最近特に暴動がよく起るのを、一部の人間は抑圧されてくる反動を起ると言う。たしかにそれもあるが、金の持ち主は一般社会への反逆者であり、手配

師の搾取がなくなり、物質面が満たされたら、金の銭々崎々であり、自由の天地である。

私を、警察では銭々斗の人間と見てゐるが、私は一般崎々者である。しかし銭々斗を支援してゐる。それは銭の為になるからだ。今は、銭々斗ができる以前と比べ、完全な自由は手配師に勝っている。

革命を目指している者もいるが、金の持ち主は、毛沢東、マルクス、レーニン主義を必要としない。何故ならば、精神的自由がないからだ。

銭々は、若い間は天国である。しかし、年寄りはいじめだ。なぜアルコール中毒者が多いのか。それは老後の保障がないので、太く短かく生きようとしてゐるのだ。

今、私は銭々崎の老人同志が助け合ひ、空気のきれいは田舎に老人共同体を作つては考えてゐます。土地もありますので、中年以上の人は、西成区東田町四十四番地、野島のお金、殿谷一行と通書が手紙を下す。若い方もどうぞ。 殿谷一行



一九七三年八月十一日 山本 明

銭々斗の孤立した斗い

そこに人間の美しさと弱さと強さを見る。

神は死んだ、おふざけが残った

少女の頬に光る涙

何もなし得ない自ら、おふざけに身をやつす自ら

に自願の笑い

神・全知全能

信頼・信頼関係

命と命、魂と魂

心の悲しみ、苦しみ、つらさ、切なさ、苦悩が、

痛みほどよくわかる

経うことを知らない人間の、気高い純真な心が、

傷つきドロドロにまみれながら――

人間不信と自己不信

そういうものに、今はそれほど悩まされてはしない。

革命家、共産主義者――そのスバミサにいまは
じれてあきれる。

夏の革命家、共産主義者

だが残念ながら、そのさうな人は今、いなくなつてしまつた。

そして自分自身にもその能力のなれど、それになる者の厳しさを大胆に力強く受け入れ、試練に耐えて行く姿勢も決意もなれどを嘆く。

しんどい、そう、確かにしんどいことなのだ。

女、ゴフク、アンビー、その安らぎ

ドヤツイまでの自尊心はうち砕かれ、エエじゃな

いへの楽主義が足をすくい倒れつつある。

あめ、ヴェトナムの兄弟よ。

朝鮮の兄弟よ。

アジア、アフリカ、ラテンアメリカの兄弟よ。

もうこれ以上と思つた。

はげしく我らを弾劾せよ。

かいならさい、共犯者となり下がつたイエロービ

ックを弾劾せよ。

革命家、共産主義者とは何だ？

進め、
わが兄弟！

かまにながれきて おれは
しごとにつかれ て ドヤに

ひーとーり さけをのーんーで
ねーむーり ふるさとをすてた

うっぶん ぶちまけた とともにすすめ
いっぴぎ おおかーみ

わがとき ちにまみれすすめとき

作詩 アル中・流・乱暴

一 釜に流れ来て 俺は一人

酒をのんで うっぶんぶちまけた
仕事につかれて ドヤにぬむり
ふるさとすてた 一匹おおかみ

※ とともに進め わが友
血にまみれ 進め友

二 俺たちは 屈辱の日々

うらみのすべて忘れてなるものか
たたかいおぼえ 友をみつけれ
手配師つぶし ポリ公と闘った

※ (くりかえし)

三 釜の仲間よ とともに斗なれん

鉄の団結 兄弟のさぶな

前哨者の在野のために

血を流し 死んでどなまわな

※ (くりかえし)

河に燈を点す 灯の灯に

地下袋に細く捲いてる

暗いたせ 通りすぎ暮情

重り合う 灰色の思ひ出に

今一つの 重きをのせて

丸の径間や えんてい仕事に

置き忘れたか 俺の影

たえ切れぬ 孤独 窓辺うつ雨

虚しく 今日も 今宵の

夜の トバリはうら淋し

細川

ロジネスス階の
住人

1 里子より

知りませんでした。

マシネリになった幸せが何のがやうなことで
立場を明らかにしようとしたことのおかげ

はがさを、
あなたの目が目ざらぬさ

グラスをへたててみると
余りにも嫌らしく思ひのです、

あなたのことです。すなわち、
あなたを主にしたもので

である事を
知らなかつたあなたし

ても、心してちやうだい
もつたにしようが

あなたとともに
進んでゆく決心がついたの

権力の強圧で
あなたとわたしの間が

たしかなものになるなんて
推かってバカネエ

(山田)

地球は丸い
我々は自由人だ

地球は丸いんだって
俺の顔もどちがといえは丸い方だな
でも丸いってどういうことなんだろう
デエホエだって丸いんだ
丸い地球に平野がある
平らたいんじゃないかと思っほとないない……がある
僕の内も丸いはずなんだ
心に太陽をもち、唇に歌を
太陽は熱いんだ
あつたかいなんてもんじやないんだな
でも あつたかくも使えるよ
僕の内も熱すぎる、熱すぎるんだな——
熱すぎるとヤケドするんだなあ——
爆弾も太陽のかけら、原爆だつて、水爆だつて、
僕の内は太陽だ、あつたかいけど爆発するぞ
逃げるな、逃げるな、太陽に背を向けるな

太陽は心のエネルギー、心のふるさと
原始、女性も太陽であつた、
原始、男性も太陽であつた、
故郷が呼んでいる、太陽が、
太陽は丸いらしい、目もネ、
そうすると宇宙ってやつも丸いのか、
まあ何でも丸くおさまればいいやな
たけと悪いヤツが多いんだ、
太陽を一人占めしようとする奴が、
そういう奴は、やはりやく死んでもらつて、自分が
エミのよせ集めでしかないことを知つてもわなくて
はね、

まわりまわって30才
半証法のグルグル回り
クルクルパレードどうもうめやり
だが死んでいるなんていわないでください

太陽にもかかってさげぼう

おとっつあん、おっかさーん

太陽にもかかってつき進もう

オレも太陽になるんだ、太陽に帰るんだ、

そう自然に帰るのです、宇宙の今の一つになるのです、

でも、今の一つでさえ、太陽は遠いあるいは熱

いまなざしと愛撫を忘れないのです、

錯覚するなって？

いいじゃないですか、

今が太陽と思いちがえたところで……

太陽は宇宙の今の光景によつて出来ているのかも、

いいじゃないですか

誰がアポロで誰が神で仏であらうと

でも悪魔が神や仏のフリをしてもらつてはこまり

ます、だから、じかたなく斗わなければならぬ

のです、

もういいでしょう、とにかく地球はたい

月の満ち欠け
すずめの鳴き声と

ニイニイゼミの鳴き声と

永流トイレの水の音と

うなる機械のあつくるさど

こつこつとスズを叩きぬける音と

もう始まる昼食のかりこつとさかぐ

バツカンの音と

どこかでたたく朝知様の歯えて

くるく／＼風ぐるま

やかてむなしいこもりうた

歯けはあしたのイライムの音が

はやくも耳に鳴りひかく

やかんにそぞろキユウスの茶の音

さみしく席にこたえて

やはり耳に残れるは

ははの食事のあたたかさ

さみしきこととは知りながら

やらねはならない男の食事

負けておかない権力と

いゝとガマニで耐えなけりや

日本の夜明けとニハ行へ

どうせ君と僕とは切つても切れぬ

仲なんだ。どれ？ あれかい？ あれ

はスズメだよ。スズメだったっていつく

り返ることがある。

人同のようにならぬをしかめたり笑

てみたりしないからかいいいま

うん、ニニでは他人様を気にしなく

ていいよ、僕と君しか居ないのだから

ら、たまに郵便屋がのぞいてゆくた

け、それも気にしなくていいよ

小荷物ぐらいいにかきかえていいん

だから。こちらは無視してやればい

い、そやからこの僕人が時々のそ

くけど、そやも気にしなくていい

僕と君にはあまり関係ないから

向いの郵便と隣の郵便の人が僕と君

の仲めだし、僕自身なんだ

時々カクをたいてくるが、元気が

という相図なんだ

ニちらもまたかなげなならぬ、

も、ニちらが三つたたはニちらも三度

強くたたけは強く

うん、たけで通いよんだ、時々社会が

ら人間がたすねてくると僕達の仲

腐た、ガラス越しに合やなくてはな

らないが、社会ではやうていふ悪い病

菌がうつらないようにとの郵便屋の心

優しいだ。この郵便屋の心使ひには涙が

まーい精力が払われぬ。社会から

送られくる友人の手紙や新聞などは

は、全々合格の印が押されてある。無

産の印がある。時には顕微鏡で調べる

見付け出した攻撃型赤色ビールスの上

に黒い消毒液をぬって動けなくするあ

るんだって、ナムアミダブツ……

ぶこへちゆかはい
 この俺がきつと咲かせる赤い花
 (巻頭より)
 がまあみやがれ、もう配当じやないか。
 結局お前には何もできなりのさ、翔
 ミノ野郎。せいの鳴く音が涙の行列
 をつくる。その中へ、汚れた翔ミノ
 をたたき込み、アワのたつまきさ
 回せ。さらけ出し、時が起てそう隠れ
 る眠ってゐるものを。遠慮するなよ
 ゲンカイ君、君を恐ろけろよ、だか
 ら見える所まで出ておいで。
 中つくりと話をしよう。逆く人は逆
 かせて、笑う人は笑わせて、怒る人
 は怒らせておけはい。僕と君とは
 そんなことおどろくようなことは
 ないし、自分を曲げて生きてもいい
 もりはあり。そうだろう君。ふみ
 にいた人があればそうしていい
 かまわな。い。
 そうそう。その調子、もっと近くへ来
 ればいい。僕は、君をいやかりはし
 ないよ。だからここへ座れよ。
 知ら。その郵便受けからのぞいて
 みる。だろ。荷物があるかどうが
 いちいち調べていくのだ。
 ドアを見ろ。らんよ。カギ穴も掛け
 れば、ノブもなし。
 僕は、社会に二十六年間居たけど、

外からしか聞かれないドブなごつりぞ
 知らなかつたが、そういうのがあ
 るんだ。
 下の方に鉄がたがあるけど、あそこ
 から、やつと生きてゆけるだけの
 食糧が、朝昼夜に入ってくる。
 この住人が配当金をもらって、僕
 達とは時々、じょうだんを言う
 こともあつたが、郵便屋がうるさい
 ので、住人の二こと三ことしか話
 せななんだ。
 食つて寝てりゃあいいんだって。
 こころ来るほんの一個月前までは
 もつとおかしくところからいたんだ。

赤目十三郎

〔連載〕健康を守る一コマ

「医療を考える会」

凍瘡 (しもやけ) ビビ アカギレ をいり
 手足 耳等が赤くなる 進行すると腐敗にいたるので
 患部のマツサージ等をして血液循環をよくする
 寝る時身袋をはめて寝るとよい。
 米ヌカを布袋に入れ、蒸出した オコに患部を入
 れ、三十分あたためた後、ヌカを患部にすりこむ。
 そして、ぬれたヌカが乾くまで 充分にマツサージを
 おこなひ、最後にヌカを払い落とすという民間療法
 が一番、しもやけ等には郊くといひれます。

編集後記

山谷の對外情宣は衆人であるにもかかれらず、金ヶ崎の情宣はあまりにも少なく金——〇、六平がキロー——の外へ出れば差別と偏見、憎悪にまみれた目で対応してくる。金はマスコミに宣伝されてくる票に要素をすべてかかえ込み社会から見はなされた汚物として流し去られる。

金ヶ崎を越ったことは、単なるつめざとして冷いコンクリートの壁に反響するだけで、重軍の音と吹きすさぶ弾圧の嵐にもみ消されてしまふ。矢の如くいつた体力と激しい情熱の化石だけが、金ヶ崎の頭上を乱れ飛んでいく。矢の如くものを創造しなくてはならない。消えていった数々の言葉や暴動を告げなくてはならない。

この要求に仲間が答えてはならない。不ル新、権力どもに字をかくことを強制し、ペンもなく、紙もなく、書く場も与えられない仲間とその場を保証しなくてはならない。

表現する事をうけつた人間に、まず自分を表現する一手段を確保してやりねばならない。

字を書けない仲間には、話を聞き代筆をする。

表現を保証する事は自分の立場を自覚し、金ヶ崎をとりまく状況を自覚するが第一とならねばならない。

金ヶ崎の閉鎖性、権力の弾圧を粉碎する時、とりまく地獄を解体してゆく中から、金ヶ崎を出てゆかねければならない。

いや、出るのではない。社会、地位を管理し、権力の座に居すめて、いるものどもを追いつ出すのである。

資本主義の抑圧と偏見と一切の悪の根をうつつ積ませて、いる処と手をつなぎ、たえね流動して礎石をぐらつかせるのだ。南海線の高架と環状線の高架とでとり囲まれた、三角な金ヶ崎から訴える。

暴動と無念の死を告げられた金ヶ崎を訴える。

土方の君は スケベのまなざし
熱かんトックリ)の首つまんで
もう一糸いかななんて
妙にエロっほいね

(よしだたくろう“旅の宿”のかえ歌)

《呼びかけ》

おれたちの文化活動を!

- ・武器になる生きた文字とコードを!
- ・つくろうおれたちの〈解放学校〉を!
- ★ 背広族、学校出に奪われた文化をおれたちの手に
——“釜族”の文化を!
- ☆ つくろうおれたちの雑誌を——『釜族』をみんなのもの
として発展させよう!
- ・準備しよう 創刊号の活用方法を、第2号の原稿を
- ★ 「強者」的な若い結びつきをつぶし、「弱者」的な強
い団結をつくろう!
- ・学校出、背広族、文章がうまい、演説がうまい、体
が強い……など「強者」がハバきかす結びつきから
「最弱者」の利益や1の団結へ! (トラ)